

日本の銀行部門におけるポートフォリオ選択行動について —GARCH モデルを用いた実証分析—

財務省 石川 大輔

本論文は、日本の銀行部門において、収益率やリスクが、貸出、株式、国債などの種々の資産間でのポートフォリオ選択行動にどのような影響を与えていたのかを実証的に考察したものである。キーとなる **time-varying** なマクロ経済の不確実性(リスク)を表す代理変数には、トレンドが除された鉱工業生産指数に GARCH モデルを適用して抽出される条件付分散値を採用した。

Markowitz 型のポートフォリオ選択理論をベースにモデルを定式化し計量分析を行った結果、(1)収益率スプレッドは安全資産比率(国債/貸出比率、国債/株式比率)の変化率に対してそれほど影響を与えないこと、(2)マクロ経済の不確実性の高まりは都市銀行においては安全資産比率の変化率を有意に上昇させるが、地方銀行においてはそのような関係は確認できないこと、を明らかにした。

(備考) 本論文の内容は全て執筆者の個人的見解であり、財務省あるいは財務総合政策研究所の公式見解を示すものではありません。